

信仰による力

今回のダニエルと共にエルサレムから連れて来られた三人の出来事は、ダニエル書での大きな信仰の証しです。神様の計画は捕囚の民の信仰のリバイバルでした。

この三人はシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの名前に改名させられ、バビロンの行政に携わる仕事をしていました。母国南ユダ王国はバビロンの傀儡政権となっていました。立てられた王ゼデキヤがエジプトに頼り、バビロンに敵対しようとした事により戦いが始まり、ついにバビロンによって滅亡させられてしまいました。

この金の王の像は、そのエルサレム陥落の戦勝記念に建てられたもので、捕囚のイスラエルの民全体の深い嘆き、憂い、悔い改めによる信仰がこの背景にあります。

私たちはこの三人の信仰告白に至るまでの、彼らの悔い改めと必死の祈りを汲み取り、必ず信じる者の祈りに応えて下さる生ける神様の存在を覚え、いよいよ祈りの手を挙げる者としていただきましょう。

聖書の学び

I、真の神を選択する三人

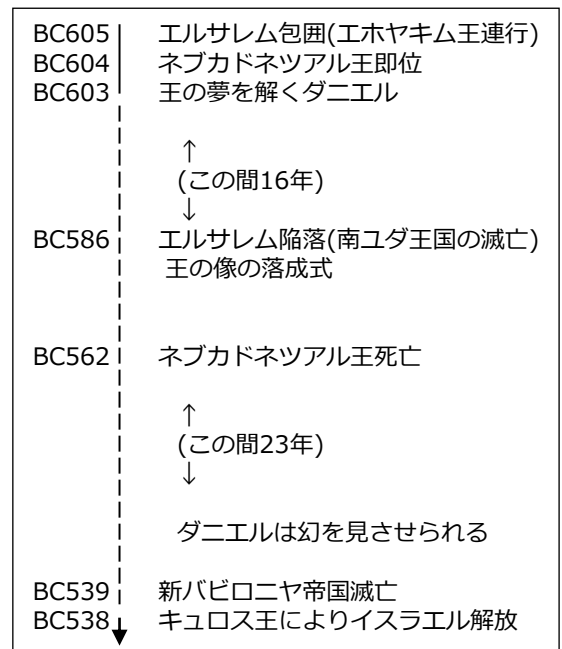
1、南ユダ王国の滅亡。神様は捕囚されたイスラエルの民に、何と言われるのでしょうか。

①南ユダ王国の滅亡の預言と成就 (エレミヤ34:17～22、39:18)

②捕囚の民への悔い改めの勧め

(エゼキエル書14:6～8)

③イスラエルの回復(エレミヤ29:10、33:3～16)



2、王の金の像(27mほど)の奉獻式で、この像を拝まない場合どのような処分を受けるのでしょうか？(ダニエル書3:6)

3、 シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴはどうしましたか？ (ダニエル書3:12)
 (ハナンヤ) (ミシャエル) (アザルヤ)

①偶像礼拝をせず、ごまかさない（その場に行かないように偽るとか、ひれ伏すふりをするとかしない）

②信仰を貫くための、祈りと信仰による決心。(詩篇102:1～22、エレミヤ30:21)

Ⅱ、訴えられた三人

(ダニエル書3:8～21)

1、この偶像礼拝の強要と脅しに、彼らはどのように答えましたか？

(ダニエル書3:17～18)

1) 私たちが仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。

→全能の神に対する信頼

2) 王よ、あなたの手からでも救い出します。

→神に全人格的に受け入れられている確信

3) しかし、たとえそうでなくても … 金の像を拝むこともしません。

(自分たちの死が神のみこころなら、焼けて死ぬかも知れませんが… それでも真の神様だけを信じます)

→神様に全面的にゆだねるとは、どのようなことでしょうか？

2、三人は当然訴えられることを予期していたと思われますが、彼らは前もって何をしていたと思いますか？

エゼキエル18:30～32

Ⅲ、従う者を祝福し、ご自身を証しされる神

(ダニエル書3:19～30)

1、ネブカドネツアル王は炉を7倍熱くして、彼らを投げ入れました。

火の中の様子を王はどのように表現しましたか？ (ダニエル書3:24～25)

①縄を解かれて、歩いている、害を受けていない。

②3人投げ込んだのに、4人の者がいて、第4の者は神の子のようだ

2、炉から出された三人の様子はどうでしたか？ (ダニエル書3:27)

3、ネブカドネツアル王は三人の信仰を褒めただけでなく、どのような思いを持ちましたか？ (ダニエル書3:28～29)